

平成29年度 事務事業評価シート

事務事業名		小学校演劇鑑賞教室				所管	教育委員会 指導課	
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	64	計画事業名	子どもの文化教育の充実	事業の開始・終了年度		
	長期総合計画体系	[基本目標] I-3. 文化が息づく豊かな生活の創出						
		[小 柱] (4)文化に親しむ環境づくり						
		[施 策] ①文化に触れる機会の充実						
	根拠法令等	その他	[法令等名]	学習指導要領		[事業開始]	年度	
	事業対象	区立小学校6年生						
	事業目的	区立小学校の児童が能・狂言を鑑賞することにより、伝統芸能に触れる機会を通して創造性を養い、児童の豊かな情操を育てるとともに鑑賞態度を身に付けさせる。						
	事業内容	区内に能・狂言を行う事業者があることから、児童が普段馴染みのない能や狂言を鑑賞する機会を与え、伝統芸能に触れ、そのよさを理解するとともに鑑賞のマナー等を学ぶ。						
委託の有無	一部委託	委託内容	能・狂言の公演 舞台装置設置作業					
補助金の有無	なし							
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (30年度)	26年度	27年度	28年度	
	活動指標	開催回数	(回)	2	2	2	2	
		参加児童数	(人)	1,010	1,040	1,081	1,022	
	決算額 (単位：千円)				3,821	3,822	3,823	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト(人件費など)			255	241	178	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			3,821	3,822	3,824	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			0	0	0	
		総経費			4,076	4,063	4,002	
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0	
一般財源(区負担額)			4,076	4,063	4,002			
前回評価から改善した事項	なし							
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	各学校の教育課程に位置づけられており、能や狂言を鑑賞することで日本の伝統文化を学ぶことが出来、情操教育に活かされているため必要性が高い。					
	効率性	3	区立施設及び区内事業者を活用している。また、1日2公演実施することで多くの児童が鑑賞できるように工夫するなど効率的に実施できている。					
	手段の適切性	3	区内施設で、区内事業者へ公演委託を行っており、毎年公演の演目を吟味している。児童が日本の伝統文化に触れることができ、適切な手段で実施している。					
	目的達成度	4	1日2回公演を実施。多くの児童が伝統文化に触れ学ぶ体験ができている。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
能や狂言の鑑賞を通じて子どもの創造性を高める本事業は、情操教育に効果的である。また、鑑賞態度を身につけさせるためにも効果的であり、継続して実施していく。						維持		